

# 状態別のファーストコール先（例）

## 子ども（と保護者）の状態

子どもが身体的な不調を訴えている  
(起立性調節障害等)

子どもが本当に不登校なのか  
保護者として迷っている

現在の環境から  
子どもが離れたがっている

学習遅滞が顕著で、ゆとりある  
学習環境のほうが合いそうだ

設置区分	相談先・支援機関	
	名称	概要
公共 公立○ 私立△	(1) 校内フリースクール (校内教育支援センターとも)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内公営「フリースクール」</li> <li>公立小中の4-5割に設置済み</li> </ul>
	(2) 校内別室 (教室外/保健室/相談室等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室に入れない場合避難的に</li> <li>既存教職員が業務の傍らで対応</li> </ul>
	(3) 教育支援センター (旧 適応指導教室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外公営「フリースクール」</li> <li>在籍校に所属したまま通う</li> </ul>
	(4) 学びの多様化学校 (旧 不登校特例校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟なカリキュラム運営を行う</li> <li>転校のうえ所属し通う</li> </ul>
民間 公立○ 私立○	(5) 医療機関等 (メンタルクリニック等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルクリニック</li> <li>カウンセラー</li> </ul>
	(6) 親の会・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の子どもを持つ/持ったことのある保護者の集まり</li> </ul>
	(7) フリースクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校に理解あるスタッフ多い</li> <li>一方で先進的な教育手法を望む家庭を対象とした施設もあり</li> </ul>
	(8) 不登校に配慮ある塾や 家庭教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営者や教え手も不登校経験がある/理解している団体も増加中</li> </ul>

※校内でのつながりである(1)(2)を模索した以降の選択肢について図示